

宮城県林業技術総合センターにおいて開発したマツ枯死木の探索法（抜粋）を
以下に紹介する。

調査円内で皮ポンチを使用したマツ枯死木の探索法 (通称:皮ポンチ法) 一暫定版一

1. この手引は、松くい虫被害木駆除の効率化の観点から、年越
枯れ木の早期駆除を目的とした枯死木の探索法(皮ポンチ法)を
記したものです。
2. この手引を適用できるマツ林は、林分として一定の広がりがあり、かつ、主たる感染源が林内にあるマツ林とします。
3. この手引書は秋調査及び冬調査に適用できます。
4. 2に該当するマツ林の基準については今後研究していきます。

1. 用語の定義

- 枯死木
内樹皮と木部表面が褐色に変化し事実上枯死したマツ
- 年内枯れ木
枯死木のうち感染した年内(10月頃)に葉が褐変するもの
- 年越枯れ木
枯死木のうち、感染した年内は緑葉を保持していて翌年
(3月頃)になって葉が褐変するもの
- ポンチ調査
枯死判定のため、小田の方法※に準じて皮ポンチと木槌
を用いてマツの樹皮をめくり、木部と内樹皮の色を観察する
調査

※ 松くい虫の加害対象木とその判定法について (森林防疫ニュース vol.16 No.12(No.189) 1967)

4. ポンチ調査の実際

(3)皮ポンチを打ち込む。

○孔は基本的に1箇所で良いが。木部に深く打ち込みすぎた場合は別の場所に開けなおす。

○ポンチを打ち込む部位はできるだけ地際付近が良い。

皮ポンチを直角に当て、木権で少しづつ打ち込む。打ち込む時の感触は、外樹皮は硬く、内樹皮は柔らかい。木部に達すると再び硬くなりそれ以上入らなくなるのでその時点で止める。

4. ポンチ調査の実際

(5)樹皮(外樹皮と内樹皮)の剥離状況





